

派遣者番号	R5K26	氏名	土谷 英純
研究主題	道徳教育と生徒指導の相互関係の充実を図る取組に関する一考察		
派遣先大学	早稲田大学	指導担当者	酒井 徹
所属	足立区立梅島小学校	所属長	近津 勉

キーワード：道徳的实践 「関連する心」 生徒指導提要 生活目標 学校のやくそく

要旨： 教育活動の全体を通じて行われる道徳教育と生徒指導との相互関係の充実を図る取組を通じて、児童の道徳的实践をより確かなものとするため、道徳科の授業と生徒指導の双方からのアプローチを試みた。

道徳科の授業では生徒指導の資料を活用し、質問紙調査を行って効果を測定した。生徒指導では、学校で活用されている「月別生活目標」及び「学校のやくそく」の各項目を道徳科の内容項目と結び付け、さらに「関連する心」として平易な文章として表記することで道徳的实践へとつなぐ指導の一助となるよう整理・充実を図り、教職員に対して質問紙調査を実施して検証した。質問紙調査の結果より、本実践が児童の道徳的实践へとつながり得るとの示唆を得た。一方で、授業改善や「関連する心」の見直し・改善等、さらなる効果向上のための課題も明らかとなった。

1 課題設定の理由とその背景

「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科道徳編」（以下、「道徳編」と記述する。）には、「現実の困難な問題に主体的に対処することのできる実効性ある力を育成していく上で、道徳教育も大きな役割を果たすことが強く求められた」と記されている。道徳は教科化され、特別の教科 道徳（以下、「道徳科」と記述する。）となったが、背景には深刻ないじめ問題等の発生があげられる。その解決のために、人間性に深く迫る教育が求められることが教育再生実行会議の第一次提言で示された。提言では、「心と体の調和の取れた人間の育成に社会全体で取り組む」とし、「国は教科化により指導内容を充実し、効果的な指導法を明確化する」と記述されていることから、筆者は道徳教育の重要性を再認識し、充実を図る取組が必要であることを理解した。

道徳教育の充実に向けて、「道徳編」からは児童が道徳教育によって身に付けた道徳性を、実効性ある力として育成していくことが重要であることがうかがえる。さらに「道徳性は、徐々に、しかも着実に養われることによって、潜在的、持続的な作用を行為や人格に及ぼすものであるだけに、長期的展望と綿密な計画に基づいた丹念な指導がなされ、道徳的実践につなげていくことができるようにすることが求められる」との記述から、身に付けた道徳性を道徳的実践へとつなぐことが求められていることが明らかである。

また、2022 年に改訂された生徒指導提要では「児童生徒が現実の困難な問題に主体的に対処できる実効性ある力を身に付ける上で、道徳教育が大きな役割を果たすことに強い期待がもたれている」と示されている。更に、道徳教育と生徒指導を相互に関連させることが重要であること、道徳教育によって培われた道徳性を具現化することが生徒指導の大切な働きであることが指摘されている。「生徒指導提要」の記述からも、道徳科を要とした道徳教育では、児童生徒の身に付けた道徳性が、実効性ある力として道徳的実践につながることを求められると理解する。

生徒指導の目的に注目してみると、「生徒指導提要」では、「児童生徒一人一人の個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支えると同時に、自己の幸福追求と社会に受け入れられる自己実現を支えること」とある。そして、この目的の達成のためには、自己指導能力が重要であることが明示されている。自らの行動を決断し、実行する自己指導能力には、基準となる“ものさし”が必要になる。筆者は児童生徒が社会に受け入れられる自己実現を支え、果たしていくための“ものさし”となり得るものは、よりよく生きるための基盤となる道徳性に他ならないと理解した。

加えて、「生徒指導提要」において、道徳科の授業と生徒指導とは、「実際の指導に際しては、両者は一体的に働くものである」とし、両者が相互補完関係にあることを示している。更に「道徳教育と生徒指導はいずれも児童生徒の人格のよりよい発達を目指すものであり、学校の教育活動全体を通じて行うという点で共通」していることも明示されている。このことから、道徳科を要とした道徳教育と生徒指導の双方は密接に関連すると理解できる。

この点については、先行研究からも明らかにされている。「生徒指導と道徳教育の関連性に関する一考察」『群馬大学教育実践研究第 29 号』（豊泉 2012）では生徒指導と道徳教育の目的について、「生徒指導と道徳教育が協働育成すべき「豊かな心」『くらしき作陽大学・作陽音楽短期大学研究紀要第 48 巻第 2 号別冊』（秋山 2016）では目標について、その共通点を示した。「積極的な生徒指導の在り方の授業指導」－広島女学院大学での道徳教育と関連させた授業『生徒指導の研究』の事例－』『広島女学院大学論集第 62 集』（戸田 2012）では、生徒指導と道徳教育が依存・補完しあった関係にあると述べ、「『特別の教科道徳』と生徒指導」『人と教育第 11 号』（中山 2017）では、道徳科の授業によって培われる価値観が生徒指導へとつながることを示した。更に「校則を用いた生徒指導法について：学校における規範意識形成と道徳教育」『埼玉学園大学紀要人間学部篇 17 巻』（吉村 2017）では生徒指導上、道徳教育は常に意識されておらねばならないものとして、双方の関係が切り離せないものであることを指摘している。

つまり、密接に関連する道徳教育と生徒指導をそれぞれ別々の取組として実践するのではなく、相互の関係を意識し、その充実を目指すことが重要である。そうすることで、児童は日常生活の中で起こり得る困難な問題にも主体的に対処することができるようになるとともに、実効性ある力が身に付くことで、道徳的実践へとつながると理解し本主題を設定した。

2 実践対象校の状況

【実践対象校】

都内公立小学校（区部） 学級数 18 児童数 574人

【実践時期】

2023年10月

【実践及び調査対象】

第4学年及び第6学年（合計192人）、教職員（25人）

3 実践の目的

児童に対して、実践対象校内で用いている生徒指導に関わる資料を活用した道徳科の授業を行う。このことにより、実生活を想起し、自分との関わりで道徳的価値についての理解を深め、現実の困難な問題に主体的に対処する実効性ある力を育てることで、道徳的実践へとつなぐことを目的とする。また、生徒指導に関わる資料を道徳科の内容項目と結び付け、その関連を明らかにする。このことにより、実践対象校における生徒指導と道徳教育の充実を図り、児童の日常生活における道徳的実践へとつながる指導の在り方を教職員に提示することも目的とする。

4 実践の方法及び成果の検証方法

4-1 「月別生活目標」および「学校のやくそく」を活用した道徳科の授業実践

実践対象校で使われている「月別生活目標」や、学校でのきまりやルールが示された「学校のやくそく」を活用した道徳科の授業を行った。第4学年及び第6学年の児童を対象とし、展開の後半部分でこれらの資料を活用した。第4学年では「かべに付けた手のあと」「道子の赤い自転車」（『新・みんなの道徳4年』学研）を、第6学年では「食べ残されたえびになみだ」「前を向いて」（『新・みんなの道徳6年』学研）を用いた。なお、授業に関する効果を検証するため、児童を対象とする質問紙調査を実施した。

4-2 「月別生活目標」及び「学校のやくそく」の整理・充実

「月別生活目標」及び「学校のやくそく」の整理・充実を目的として、それぞれに記されている各項目を道徳科の内容項目と結び付け、更に内容項目を平易な表現で文章化して「関連する心」として資料を作成した。また、発達段階を考慮して低学年用、中学年用、高学年用に分けてそれぞれ作成した。なお、この取組の検証を目的として、教職員を対象とする質問紙調査を実施した。

5 実践内容

5-1 「月別生活目標」及び「学校のやくそく」を活用した道徳科の授業実践

授業においては、「月別生活目標」と「学校のやくそく」の2つの資料を活用した。この資料は、年度当初に実践対象校の健康安全部（生活指導部）から提案されるもので、年間を通じて各教室に掲示され、児童も教職員も日常的に目にするものである。また、「月別生活目標」は月曜朝会において担当の教員からの全体指導がある。このように、これらは児童の日常生活の中に溶け込んでいることから、学習したことを自分の生活との関わりから考えられる教材になり得るものと捉えて活用することとした。

第4学年では、内容項目C「規則の尊重」の教材「道子の赤い自転車」を扱った。この授業では後半部分で「学校のきまり」を提示し、前半で学んだことを自分の生活との関わりで考えられるようにした。日常的に慣れ親しんでいる資料を活用することで、授業で学んだことが教材の中だけで完結することなく、自分事として考え、自己の生き方について考えを深めることをねらいとしている。また、児童が自らの考えを深めたり整理したりできるようにするため、ワークシートを活用し書く活動を取り入れた。以下で児童の記述内容（抜粋）を紹介する。

「〇〇小のやくそく」を見て、どのようなことを考えますか

- ・〇〇小のやくそくはたくさんあるけれど、どれもとても大切なもので、理由があるからやくそくになっているのだなと思いました。
- ・やくそくは一人が守るだけじゃだめだから、一人一人がきちんと守ることでみんなが安全に過ごせるようになるのだなと感じました。
- ・楽しい生活が保てる。理由…やくそくを守るとけがもしないし、安全に生活ができる。
- ・ちょっとしたやくそく、ルールだけど、一つ抜けるだけで生活が乱れるので、これから守れていなかったルールも少しずつ守っていこうと思います。

なお、第4学年ではこの他に、内容項目C「よりよい学校生活、集団生活の充実」を扱った授業を、教材「かべに付けた手のあと」において「学校のやくそく」に記されている「きれいでみんなが気持ちのよい空間にしよう」という約束と関連させて実施した。

次に、第6学年の授業について説明する。第6学年では、内容項目A「節度、節制」を扱った教材「食べ残されたえびになみだ」の授業を行った。この授業では後半部分で当月の「月別生活目標（みんなで使うものをていねいに使おう）」を提示して学んだことを自分の生活との関わりで考えられるようにした。この授業でもワークシートを活用して書く活動を取り入れた。次に、記述内容（抜粋）を紹介する。

「みんなで使うものをていねいに使う」ために自分にできること

- ・乱暴に使っている人がいたら注意する。
- ・今度、使う人が不快にならないような使い方・しまい方をする。
- ・ルールやマナーを守りながら使う。
- ・自分もちゃんと丁寧に使い「あの人も雑に使っているからいいや」とならず、ちゃんとできていない人のお手本になる。

なお、第6学年ではこの他に内容項目C「よりよい学校生活、集団生活の充実」を扱った授業を、教材「前を向いて」において「学校のやくそく」に記されている「みんなで生き生きと安心して過ごせる〇〇小」と関連させて実施した。

5-2 「月別生活目標」及び「学校のやくそく」の整理・充実

「月別生活目標」及び「学校のやくそく」については、教職員向けにも整理し提示した。それは、年間を通じて、各教室に掲示され、児童や教職員が日常的に目にし、学校生活のあらゆる場面で活用するなど、指導に欠かすことのできない資料となっているためである。この資料の各項目を道徳科の内容項目と結びつけた。そして、結び付けた内容項目を児童にとって理解しやすくなるよう文章化して置き換えた。文章化することによって、教職員にとっても関連の具体的なイメージが把握しやすくなるなど、指導に役立てることができると考えたためである。このようにして、文章化した言葉を「関連する心」として高学年用に提示したものが図1である。4月を例にすると

月別生活目標（高）					
月	行事	目 標			
4	新学期	進んであいさつをしましょう (時と場に 応じて 礼儀正しく 真心をもって 接しようとする 心)	10	学校の開 校準備式 後始末式	みんなで使うものをていねいに使おう (自分や 他人の 権利を 大切に 義務を 果たそうとする 心)
6	運動会	廊下や階段は、右側を歩きましょう (健康や 安全に 気をつけようとする 心)	11	展覧会	展覧会の成功に向けて みんなの力を合わせてがんばりましょう (希望と 勇気も ち くじけずに 努力しようとする 心)
6	学校の開 校準備 式	勉強道具を用意してから遊びましょう (生活習慣の 大切さを 理解しようとする 心)	12	ふしあひ 音楽 冬休み前	あったか言葉をつかいましょう (相手の 立場に 立って 親切に しようとする 心)
7	夏休み前	机やロッカーの整理・整頓をしましょう (自分の 生活を 見直そうとする 心)	1	新年 冬休み明け	学校のやくそくを守って生活しましょう (法や きまりを 理解し 進んで 守ろうとする 心)
9	夏休み プール終 り	チャイムを守って勉強や清掃をはじめましょう (法や きまりを 理解し 進んで 守ろうとする 心)	2	6年生を 送る会	寒くても外で遊んで身体をきたえましょう (健康や 安全に 気をつけようとする 心)
			8	年度末	責任をもって学校や学級の仕事をしましょう (集団の 中での 自分の 役割を 自覚し 責任を 果たそうとする 心)

◎内容について、題意が朝会などで前週の成果と課題および注意事項を周知し、児童の規範意識を高める。

図1 「関連する心」と結びつけた「月別生活目標」

「礼儀」の内容項目を結び付け、文章化して「時と場に応じて礼儀正しく真心をもって接しようとする心」として示した。同様にして各月の項目に関しても「関連する心」として記した。さらに「関連する心」を発達段階に応じて分類し、低学年用、中学年用、高学年用として整理した。「礼儀」については「気持ちのよい挨拶や言葉遣い、行動をしようとする心（低）」「礼儀の大切さを知ろうとする心（中）」「真心をもって接しようとする心（中）」「時と場に応じて、礼儀正しく真心をもって接しようとする心（高）」のように文章化した。なお、「心」という表現について、『道徳ツールとアクティビティでできる「考え、議論する」道徳ワークショップ』（田中、梅澤、彦田 2018）では「新学習指導要領における道徳科の内容項目の具体例には『明るい心』『探求しようとする心』『温かい心』『思いやりの心』『謙虚な心』『広い心』『愛する心』『感動する心』『すがすがしい心』『優しい心』といった言葉が使われていることから、アクティブ・ラーニングの視点を生かした道徳科の授業改善のためには、子どもたちに内容項目をわかりやすくした『心』という言葉を用いることに合理性があることがわかる。」と解説している。

「学校のやくそく」についても同様に整理した。全54項目について、内容項目と結び付け、それを「関連する心」として文章化して提示した。こちらも「月別生活目標」と同様に低学年用、中学年用、高学年用と発達段階に基づき分類し、作成した。図2は高学年用に「関連する心」と結び付けた「学校のやくそく」である。

ア 教科書のよいお話に、出合ったとき	61%	64%
イ 自分とは、ちがう考えを知れたとき	59%	59%
ウ 自分と、にている考えを知れたとき	38%	39%
エ 自分の考えを伝えられたとき	36%	32%
オ 自分を、ふり返ることができたとき	34%	49%
カ 新たな目標ができた、よりよい自分になりたいと思えたりしたとき	46%	62%

表3 「〇〇小のやくそく」と「生活目標」を使った道徳の授業について
どのように思いましたか（いくつでも）

項目	事後
ア 道徳の授業と「〇〇小のやくそく」や「生活目標」が関係していると思った	54%
イ 道徳の授業が自分の生活と関係していると思った	57%
ウ 道徳の授業で学んだこと自分の生活の中で生かそうと思った	59%
エ 「〇〇小のやくそく」や「生活目標」を使った道徳の授業は分かりやすいと思った。	34%
オ その他 ※その他の回答（抜粋） ・特に思わなかった。 ・これから自分がどう生かしていくのか、具体的にわかり行動にうつしやすくなった。 ・ふだんの生活と比べると、自分が体験したことがあるものだから分かりやすく、今後に生かせると思った。	5%

表1の調査から、自分との関わりで道徳的価値について考えるようになったことが項目・オの数値の上昇から明確になった。自分との関わりで道徳的価値について考えることとなったことで、学んだことを自分事として捉え、これまでの自分やこれからの自分の生き方について考えることへとつながっていく。このことは、事前と事後の調査から得た表1・キ、表2・オの数値の上昇からも理解できる。さらに表1・キに加え、表2・カ「新たな目標ができた、よりよい自分になりたいと思えたりしたとき」の数値が上昇した。これまでの自分やこれからの自分のことを考え、目標を設定し、よりよい自分になりたいと思えることは、実効性ある力を身に付けようとする児童の道徳的実践へとつながることを示唆するものであると理解できる。また、表3・イ、ウの回答から、日常生活と関連付けて自己の生き方について考えることで、道徳の授業が自分の生活と関係していることに気づき、自分自身の問題として受け止め、自分の生活の中で学んだことを主体的に生かそうとすることが明らかとなったと判断する。日常生活の中にある様々な困難な問題等も含め、主体的に対処するために学んだことをこれからの自分に生かそうとすることも、実効性ある力を身に付け、道徳的実践へつなげようとする児童の姿であると捉えられる。

これらの調査結果から、「生活目標」や「学校のやくそく」を活用した授業は道徳的実践へとつながる手だてとなり得るものであると理解した。

一方で課題も明らかとなった。「月別生活目標」や「学校のやくそく」を活用した授業が分かりやすいと思った児童は34%にとどまる結果であった。つまり三人に二人は分かりやすい授業ではなかったことから、児童の実態を理解し、適切に教材を活用することが求められるものであると捉えた。また、その他として、「特に思わなかった」と回答した児童もいることから、『令和の日本型学校教育』の構築を目指して（中教審2021）にも示されたように、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することが必要であると考え、授業改善を図って道徳的実践へとつなぐための指導の工夫が必要であると理解した。

6-2 「月別生活目標」及び「学校のやくそく」の整理・充実

生徒指導に関する上記の資料を道徳科の内容項目と結び付け、更に文章化して「関連する心」と結び付けて表記したものを25人の教職員に提示し、それらの活用に関する調査を「とてもそう思う」「そう思う」「あまり思わない」「全く思わない」という回答項目を設定し、質問紙にて行った。「道徳科の内容項目と関連した『月別生活目標』及び『〇〇小のやくそく』は、道徳教育と生徒指導の関連を意識する指導へとつながるものだと思いますか」の質問では、「とてもそう思う」に9人、「そう思う」に15人が回答している。このことから、教職員が道徳教育と生徒指導との関連を意識して指導することを肯定的に捉えていると理解できる。更に「道徳教育と生徒指導の関連を図ることで、教育的効果の向上が認められると思いますか」の質問では、「とてもそう思う」に7人

「そう思う」に 18 人が回答している。このことから、教職員は生徒指導と道徳教育との関連を図り、「関連する心」を表記した資料を活用することが教育的効果の向上へとつながると理解していることが示された。次に、表 4 の質問項目へ回答してもらった。

表 4 それ（教育的効果の向上）はどのようなものでしょうか（複数回答可）

項目	人数
1 現実の困難な問題に主体的に対処することのできる実効性ある力が育つ	8 人
2 日常生活における道徳的実践がより確かなものになる	21 人
3 道徳的価値についての理解を一層深めることができる	12 人
4 道徳科の授業を充実させることにつながる	8 人
5 生徒指導（生活指導）の働き（生きる力として日常の生活場面に具現化できるよう支援）の向上につながる	18 人
6 自己に内在しているよさや可能性に自ら気づき、引き出し、伸ばすと同時に、社会生活で必要となる社会的資質・能力が身に付く	11 人
7 自己指導能力が身に付く	6 人
8 その他…学級の雰囲気や良好に保ち、学びに向かいやすい環境をつくることで子どもの準備性を高める効果がある。	1 人

表 4 の結果から、「関連する心」を表記した資料は道徳教育と生徒指導との関連を意識する指導につながり、その教育的効果の向上も図られることになり得ることが示されたものと理解する。

また、その効果については日常生活における道徳的実践が確かなものになったり、生徒指導の働きの向上につながったりするものであると考えられていることも明らかとなった。ところで、回答数 21 で最も多かったものが項目 2 である。この事実は、生徒指導と道徳教育との関連を図り、資料を整理・充実して活用することが、本研究の目的である道徳的実践につながる指導の実現へとつながることが実証されたと理解できる。また、次いで多かったのは 18 名からの回答が得られた項目 5 である。これは、「関連する心」を示したことで、生徒指導にも貢献する資料となることが捉えられる結果であると判断する。したがって、「関連する心」を表記したこれらの資料は、道徳教育と生徒指導双方の教育的効果の向上に貢献していると確認できる。

その一方で、表 4 に記されていないが、自由記述として「関連する心」を分類や統合する際に、やや違和感を覚える内容となっているとの示唆があった。事実、各項目と「関連する心」のつなげ方のイメージが分からず難しく、表面的なものになりがちであることは否定できない。このことから、「関連する心」に対して、その分類・統合や整理の段階で教職員の共通理解を図ることが求められると考えた。また、具体的な場面を想定した指導について説明をしたり、指導資料等を作成したりして活用を促すことも有効であるのではと考えた。更に、児童や教職員の実態を含んだ学校の実情を考慮しつつ、「関連する心」を精査し、見直し、改善していくことも必要であると理解した。

7 今後の課題と展望

「月別生活目標」及び「学校のやくそく」を活用した道徳科の授業実践は、「月別生活目標」や「学校のやくそく」を活用できる教材を吟味し、蓄積していくことで、より広く実践に生かしていけるものとなり得る。今回の実践では小学校第 4 学年および第 6 学年でそれぞれ二つの教材を扱ったが、他の教材や他学年でも実践することを想定し、より多くの教材を吟味し蓄積していくことが今後の課題である。

「月別生活目標」および「学校のやくそく」の整理・充実については、生徒指導に関わる様々な資料を「関連する心」と結びつけて行うことが重要であり、現状では改善の余地があると考えられる。また、実践対象校においては、「SNS ルール」や「タブレットのやくそく」など、生徒指導に関わる様々な資料が存在する。こうした資料にも対象を拡げ、「関連する心」と結びつけて整理・充実することで、より道徳的実践の具現化を図ることができるものと確信する。

ところで、道徳教育と生徒指導の双方に共通することとして、継続的、持続的な指導が大切である点が挙げられる。『「特別の教科道徳」で大切なこと』（赤堀 2017）の中では、「道徳性は、徐々に、着実に養われることによって、潜在的、持続的な作用を行為や人格に及ぼす」として、「一朝一夕に養えるものではない」と論述している。

『道徳編』においても「長期的展望と綿密な計画に基づいた丹念な指導」の重要性が指摘されている。本実践を断続的、一時的なものにせず、取組を継続し積み重ねていくことが求められていると認識し、これを今後の課題としたい。